

4 公共サインの設置及び管理に関すること



主管：地域振興課

経 緯

木曽広域公共サインシステム整備事業は、木曽地域振興構想に基づく木曽地域景観形成事業の主幹事業として、平成 7 年度から調査、設計がされ、平成 9～13 年度にかけて国・県の補助金等を活用し、デザインを統一した案内看板（圏域サイン、町村サインなど）の整備が木曽圏域内で集中的に行われました。その後、国道 361 号伊那木曽連絡道路（権兵衛トンネルなど）の開通等による未整備地区の案内看板を整備し、これまでに 1,000 基を超える公共サイン整備が完了しました。平成 27 年度から 4 か年かけ圏域誘導サインの照明器具を交換し LED 化しました。

この整備事業は、町村の枠を越えた広域的な整備事業として評価を得ており、平成 13 年には長野県の「美しい信州の景観づくり功労賞」を受賞しています。

現状と課題

木曽圏域内の公共サイン整備は、平成 18 年度をもって概ね完了し、以後は維持管理に努めています。スキー場等の名称変更や、道路改良に伴うルート変更などにより、随時、盤面の表記内容等を改修するとともに、維持管理経費削減のため照明器具の LED 化を実施しました。外国人観光客の増加が予想される中、多言語表記のサイン整備が求められています。

既存の公共サインは多くが設置から 20 年以上経過していることから、維持修繕、保守点検を計画的に進めるとともに、更新時期や設置の必要性を含め検討する必要があります。

今後の方針

木曽路の良好な景観形成に向け、既存公共サインの適切な維持管理と更新時期を見据えた必要性の検討を行います。

施 策

- 1 公共サインの改修、維持管理を行います。
 - ① 適切な維持管理計画の策定
 - ② 圏域サインを中心とした適切な改修と必要性の検討
 - ③ サイン周辺の環境整備